

小学生の部

最優秀賞

神奈川県知事賞

誰とでも楽しく過ごすためには

湯河原町立東台福浦小学校

五年 南部 正樹

私のいとこは障害があります。病院から発達障害と言われていました。

いとこは中学一年生で、一緒に遊ぶときは、始めは楽しいけれど、時間がたつにつれ、いとこに合わせることに面倒だと思うようになってしまいました。私より年上なのに、遊んでいるときに人の物を勝手に取ってしまったたり、自分が負けそうになるとどこかに行ってしまうたり、すぐ泣いてしまったりと、遊んでいても楽しくなくなり、なんて幼い人だろうと思ってしまうのです。

でも、いとこは私が遊びに来てくれることを楽しみにしていて、会うととても喜んでくれ

るので私もうれしくなります。また、本を読むことが大好きで、図書館に行くはずとずっと本を読み続けています。図書館から帰ってくると、私に本の内容を詳しく教えてくれます。

私は、いとこのことを自分より幼いと思っていましたが、こんなにたくさん本を読むことができてすごいなと思うようになりました。

どうしたらいいとも自分も楽しく遊べるだろうと考えました。例えばゲームで負けても商品がもらえるルールにしたり、物を探しに行くゲームにしたら、いとこも自分も楽しめるのではないかと思いました。このように、できないことを知って、別のルールを考えたり、おたがいが楽しめるゲームを考えたりすることが大切なのではないかと思いました。次にいとこに会いに行くときにこの方法で遊んでみたいと思います。

障害がある人もない人も同じ人間で、得意なことや不得意なことがあります、楽しい、悲しいと思う気持ちもあります。障害があるから一緒に過ごすが難しいと思わずに、どうしたら一緒に楽しく過ごせるのかをこれからも考えていきたいと思っています。